

第9回大崎市総合教育会議 会議録

1 開催日時 令和4年1月26日(木) 14時00分～15時42分

2 開催場所 大崎市図書館 研修室2・3

3 参加者

(1) 構成員

大崎市長 伊藤康志
教育委員会 教育長 熊野充利
教育長職務代理者 青沼陽一
教育委員 若見朝子
教育委員 佐藤寛
教育委員 堀智恵子
教育委員 早坂正年

(2) 事務局

副市長 吉田祐幸, 尾松智

教育部：部長 宮川亨, 参事 田中政弘, 参事兼教育総務課長 小野寺晴紀, 学校教育課長 大場宏昭, 生涯学習課長 古内康悦, 文化財課長 横山一也, 地域交流センター長 中川早苗, 大崎市図書館長 高橋誠明, 学校教育課副参事 畑中智, 教育総務課長補佐 久本裕, 学校教育課長補佐 後藤英樹, 生涯学習課長補佐 佐々木哲也, 文化財課長補佐 佐藤優, 地域交流センター副館長 長谷川崇, 大崎市図書館副館長 橋本知子

市民協働推進部：部長 伊藤文子, 政策課長 高橋直樹, 政策課長補佐 由利英樹, 政策課主幹兼係長 千田和弘, 政策課主事 佐々木麻衣

(3) 傍聴者 3名

4 協議事項

第1号 「大崎市教育の振興に関する大綱」の改定(中間案)について

5 その他

- (1) 学校部活動地域移行推進室の設置について
- (2) 公設日本語学校の設置に向けた取組状況について

6 会議資料

- 資料1 大崎市教育の振興に関する大綱(中間案)
- 資料2 「大崎市教育の振興に関する大綱」の改定について
- 資料3 学校部活動地域移行推進室の設置について
- 資料4 公設日本語学校の設置に向けた取組状況について

7 会議の概要

- ・事務局の進行により開会
- ・市長から開会のあいさつ
- ・市長が座長となり会議を進行

協議事項

第1号 「大崎市教育の振興に関する大綱」の改定（中間案）について

【資料に基づき説明】（資料1，2）

○**市長**：委員の皆様からご意見、ご感想なども含めてご発言いただきたい。

○**青沼教育長職務代理者**：大綱の改定ということで、簡単に変えるものではないことから現行の方針を継続ということで問題ないと思われる。基本目標4として具体的に掲げられ、簡単にはいかないが、地域や学校、家庭の共同活動がやっと出てきたという印象があり、非常にうれしく思う。この中でも特に、3番目の「親の学びを促進する」という家庭教育の支援を推進することが明確化されたことは非常に大きい。子供が育つ裏には、学校だけでなく、家庭や地域も大きく関わっている。教育の指針の中で包括して進めていくことは非常に大事な視点と考える。

○**佐藤委員**：改定案も非常によく考えられている。度重なる災害や気候変動に関しても、改定案でさらに目標が具体的に表現されていると感じた。また、価値観が非常に多様化してきている中で、道徳的な考え方が具体的に書いてある。この頃の情勢を見ると身勝手に明らかに間違っているようなことを平気でやってしまうような若者がみられるが、その点に関しても、道徳的なことを重視することが大切であると考え。さらに、青沼教育長職務代理者の話にもあったが、健康や子供の成長に関しても家庭教育は重要で、親にも学んでもらうことが有効である。校医をしているが、子供たちを指導するにあたり、親の考え方ややり方も重要な要素で、子供たちがいずれ親世代になったときにも非常に大切になることから、そのあたりも家庭と協力しながらやっていきたいと考える。勉強だけでなく家庭教育、健康問題、食事まで指導していければ良いと思う。

○**伊藤市長**：二人の委員からご意見をちょうだいした。補足説明等があれば説明をお願いする。

○**教育部長**：青沼委員と佐藤委員から家庭教育が非常に大切だというご指摘をいただいた。教育委員会としても家庭は教育の出発点と認識し、家庭教育に重点的に取り組んでまいりたい。食育に関して家庭の中での取り組みが非常に重要になり、健全な肉体の構築にも関係してくると考えている。

○**早坂委員**：基本方針が大事だと思う。これから社会がますます変化していく中で、基本に立ち戻ることがないと、時代に親も子供も振り回されてしまうことから、教育分野については、原点に立ち戻ることがさらに重要になるのではないかと考える。社会の変化、価値観の変化が今回の改定案に反映されており、時代の変化に敏感になり様々な要素が盛り込まれていると思う。

個人的に重要と思うのは、基本目標の5である。地域の伝統文化の継承が大崎市のこれからの強みとなるのではないかとと思われる。アニメで神楽が注目されたり、何気なく

やっている太鼓が叩けるということが、世界に行ったときにすごく驚かれたりする。地元の中だけでやっていると感じないこともあるため、積極的な海外との交流を経験させていくというのが大事になってくると思う。その際、地元の文化を聞かれた時に、日本は天ぷら、富士山、寿司ではなく、大崎市にはしそ巻、神楽、太鼓があって自分は太鼓が叩けるというところが、世界に飛び出していく自信になると思う。子育てしている親の立場としても、このあたりをしっかりと子供に教えていきたい。

スポーツでいうと今のトレンドとしては、eスポーツがある。ゲームも子供の遊びからプロになっていく時代となっており、親としてもどう教育していくか迷うところである。その中で、子供たちの才能が1つ1つケアされ、個性が生きていくような教育方針になればと思う。

○堀委員：ここ2年間、新型コロナウイルス感染症で様々なことがストップしてしまったことが残念と思う一方で、新たに構築されたり、素晴らしいものはもう一度立ち上げて継承していくことができる良いチャンスになっているのではないかと思う。

中学生の生徒会サミットをオンライン開催している。参加校11校が様々なことを工夫して積極的に活動していることを見て、コミュニケーションをしっかりとっているんだなと思った。やはり人間はコミュニケーションが一番なので、取組に夢中になっている学校は、いじめ問題などはあまりないのではないかと思った。また、次回のテーマとしてSDGsのアンケートを取っているとのことで、些細なことかもしれないが、このような取組を各学校で市単位でさせてもらえるのは素晴らしいことだと思う。そのような機会を一緒にの会場でできないにしても、積極的に取り組んでいただけているということに対し、教育委員としてありがたいことだと思う。

家庭教育について、自分も子育てをして思うようにならず、思うようにならないときは、行政や社会に責任があるかのような、訴えたくなるようなそういった考えを持った時期があったが、今思うと子育てをする人たちを様々な形でサポートする行政の仕組みがあったと思う。関わってはいけない、集まってはいけない、対面してはいけないというコロナ禍において、孤独になっている家庭もたくさんあるのではないかと思う。このような時に、もう一度復活させて良いもの、対面でなければ伝わらないようなことも家庭教育の中に網羅していただきたいと思う。

防災について、想像を超える災害が頻発している中で、自分の身は自分で守るという点、家庭でどのようにしたら良いかという点も目標の中に入れていただくことは必要で大切なことだと思う。

○文化財課長：早坂委員から、伝統文化の継承や海外との交流とのことで発言いただいた。現在、新型コロナウイルス収束を見据えた動きやコロナ感染拡大防止対応方針が日々変わっている中で、今後ますます海外との交流が確実に深まっていくものと認識している。伝統文化に関し、交流や発信については、機会があれば伝統文化保存団体等にも伝えていくようにしていきたい。地域では守り伝えられてきている伝統文化を把握できていないものについても確実に捉え、保存や継承についてしっかり取り組んでまいりたい。

○生涯学習課長：eスポーツに関しては生涯学習の分野に含まれると思われる。様々な家庭の考え方から教育現場で一元的に推進するものではなく、eスポーツを推進する活動などがあれば支援する仕組みを研究してまいりたい。生涯学習課の所管ではないが、防

災教育に関して、学校現場での教育のほか地域での教育がある。出前講座を実施しており、子供会や地域活動において防災安全課と連携をとりながら、事業を展開していくことになる。

家庭教育については、少子化、核家族化により家庭が孤立化しているケースが見受けられる。以前であれば祖父母と同居していたり、婦人会等の様々な場面で仕入れた情報を子育てに生かしていたこともあったが、そのような機会がなくなった影響で孤立している方に向けて、様々な活動を通して家庭教育の支援をしていきたいと思いますということになっている。行政で教育をするわけではなく、今まで経験してきたお母さん方に、同じくらいの目線または先輩の目線から様々なアドバイスをしてもらおうというような事業も展開しているので、今後も推進してまいりたい。

○**吉田副市長**：グローバル人材の育成について、社会の多様性の認識、体験と成長がきわめて大事と感じている。そういった面からグローバル人材を育成することの効果は高いが、いつも身近にいる外国人の方と話をし、理解し合うというのはとても大事な教育効果が生まれるのではないかと考える。大崎市では公立の日本語学校を設立したいと考えており、申請に向けた準備に着手している。日本語学校が開校した場合、地域に100人200人単位の外国人が市民の身近な存在となり、そういった方々との交流やふれあいによる多文化共生はグローバル人材育成にもつながるのではないかと認識している。あわせて、海外の様々なことを情報提供し自身の成長やキャリア形成に生かしていただけるような人材、そういった方々も育成できればと考える。

○**尾松副市長**：防災教育については、首都圏でも盛んに話題にあげられるようになり、防災そのものを主流とする考え方のもと仙台市で会議も開催されている。また、身をもって災害というものを体験する人が増加していることから、そういった世の中の動きになってきていると思われる。先ほど話があった想像もできなかったような災害というのは、意外と想像できる。想像するのをどこかで拒否している部分があるが、防災の観点からは若いうちに身に着けていく方が絶対身になるということは実感している。災害の関係は経験によるものが非常にいい方向に作用することもあれば、その逆もあり、今までなにもなかったから大丈夫と思う人が結構多い。そうではなく、子供のうちからこんなことが起こるかもしれないということをしっかりと考えることが非常に大事。児童生徒に勉強してもらい、それを家庭に持ち帰ってもらうことが広がっていく上で非常に有効であるということが首都圏でも意識されはじめ、小学校のカリキュラムにも組み込まれているかと思う。国土交通省や文部科学省と連携して、学習指導要領の中でどういうことをやっていけばよいかというのを勉強する内容も入ってきている。防災を自分事として考えること、地域ごとに特色があるので、防災の切り口を含めて地域をよく知ることが教育の中でしっかりとやっていけるように取り組んでいくことが重要と考える。

○**伊藤市長**：この3年、コロナ感染症との戦いを進めてきた中で、この体験を教育現場で学びとして継承していくために、行政や教育現場で私たちが心がけるべきことがあればご指導いただきたい。

○**佐藤委員**：国でも検討し、対応も日々変化している状況だが、大崎市としての対応は、学校を含め非常に上手くいったのではないかと考える。今後については、コロナウイルスそのものの性質や対応のほか、社会活動などの医療以外の面についても考えていく必

要があるのだろうと、国の状況を見て思っている。コロナウイルス感染症への恐怖心は少し薄らいできていると思われ、いずれインフルエンザ並みにとらえて社会活動を行えるようになるのではないかと思う。

○若見委員：この教育大綱は子育て世代にとって、家庭教育そのものであり、これをもとに子供たちを教育している。また、誰一人取り残さない教育、地域が子供たちを見守る教育、そのために地域活動に注力しながら、子供たちを一生懸命見守ってきた。しかし、コロナ禍の3年間ですべてが止まり、自身も止まった。それにより地に足を付けて、じっと地域を見る時間が3年間あったため、神社や寺など様々な方々とも交流をもち、神社の切り紙の伝統や神楽、青年部の活動について聞き取りを行った。さらに役員にもなり、今後どんどん活動していきたいと思っている。そのような中で、地域に眠る人材が必要となることから、生涯学習課所管の人材バンクを活用して行きたい。

国際交流については、昨年から川渡での活動が始動し、現在は川渡・三本木の2つの地域が活動を行っている。ぜひ旧古川市内や大崎市でもっと国際交流できる機会があれば良いと思う。文部科学省からの奨学金により高校生が海外にショートステイやロングステイする機会もある。あわせてその時に地域で活動する現場が必要となる。また、大崎市では現在、海外経験のある地域おこし協力隊が田尻地域を中心に活動している。そのような方々と付き合いができて地域と地域が結びつこうとしている。

また、田尻のさくらの湯で熱波師を募集しており、私にも声がかかったが、「サウナ」で少しずつ輪が広がってきている印象を受ける。サウナ好きな若者をつなげていったら地域おこしになるのではないかという話も出ている。

「ギフテッド」という子供たちが注目されている。不登校というよりもホームステューデント（家で勉強して良い）という考えが海外では浸透してきている。その中で、家庭教育と学校、地域がどのように連携を取っていくのか、その視点が今後大切になるのではないかと考える。

ラムサール条約で子供ラムサールという活動があるがコロナ禍でストップしていた。その上の18歳から30歳までが加入しているユースラムサールにおいて、53団体の自治体の加入者を集めた全国大会が愛知県であり、参加してきた。北海道から沖縄まで集まって、自分の自治体のPRビデオを作成するという一方で、とても活発に活動していた。ラムサールで賞を受賞した呉地さんもいるが、良い人材がたくさんいるため、その方々に相談しながら、子供たちを地域から全国へ、世界へ押し出していくということが大崎市で求められる活動なのではないかと思う。

○熊野教育長：教育大綱の文言を組み立てる立場から話をさせていただく。大きな世の中でのうねり、社会の変化、私たちが教育に求められている多くの方々からの期待を言葉に込めるよう努力をさせていただき、目標、方針、中身の方向性という形で組み立てをさせていただいた。具体的な活動というところまでは踏み込んでいないが、思いを十分に汲み取った形で作り上げている。

このコロナ禍の3年間は、教育界にとって大きな打撃とも言える変化だった。本来、子供たちがいきいきと関わりながら、支えあいながら、自分から求めて生きることができたはずであるが、だいぶ大きな制限を加えられたといっても過言ではない。今年は生徒会サミットも行ったが、そのような活動をバネにしながら子供たちは大きく伸びよう

としていることに気づかされた。子供たちのこの頑張りに応えるべく、私たちも1つ1つの施策の展開をしてまいりたい。そのほか、解決しなければならない問題も教育委員会に存在している。各部局、各担当、各係、教育委員会と市長部局との垣根を超えて、子供たち、保護者への発信をしながら、解決してまいりたい。

○**伊藤市長**：5月から教育委員会と同じフロアになる市民協働推進部長に感想を含めて発言をお願いします。

○**市民協働推進部長**：コロナ禍において、消極的になっていた部分をこれから再開させていきたいという思いは共通で持っているものと思われる。市民協働推進部としても、まちづくりや地域づくりなどの部分で、最大限後押ししていくような施策を展開してまいりたい。さらに教育環境のみに留まらず、地域の環境も一緒に後押ししていきたい。地域が元気でなければ大崎市は元気にならないと思っているので、これからのスタートダッシュ、皆さんを応援してまいりたい。また、新庁舎では教育部と同じフロアになることから、垣根を超えたという部分では、物理的にも垣根を超えられると思っている。

○**市長**：おおむね委員の皆様方からは、中間案について、肯定する意見をいただいたので、今後、中間案をパブリックコメントなどの手続きを経て、次回の総合教育会議に最終案としてご提案してまいりたいと思うが、このような手順で進めてよろしいか。

(はいという声)

協議事項については、以上となるが意見等があればうかがう。

○**青沼教育長職務代理者**：学校教育の大きな課題として、学力向上といじめ、不登校の問題がある。基本目標2に関して、「基礎的・基本的」と「的」をつけた部分も含めて、そのあたりをどのように考えていくのか。具体的な手だての話は基本目標に載らなくても良いと思うが、大きな課題だという認識を持ち、しっかり見つめておく必要がある。手だてとしてどうことはもちろん、実践の中で教育委員会の方で進めてもらっているが、お願いしたい。いじめ、不登校についても心の問題なので、基本目標2に分けて載せられたことは評価している。この2つは大きな問題なので、今後の課題ということで、質問されたらどう答えるかということも含めてお願いしたい。

○**学校教育課**：学力向上については、教育委員会としても重要な課題であると認識している。基礎的、基本的な知識、技能の確実な定着という点については、児童生徒の学力の状況を鑑み、焦点化して記載させていただいた。「自ら考え問題を解決する力を育みます。」というところも、現在求められている主体的・対応的で深い学びに結びつくよう子供たちの自発的な課題を解決する力を育てていくための文脈として記載している。学力向上については、基本目標2の方向性の1つ目のところに含めて考えた。

いじめ・不登校については、2つ目の「志教育の推進」に含めている。また、次の道徳教育の中にも教育活動全体を通じて、思いやりの気持ち、命を大切にすることがまさに求められている部分と捉え、そのような部分を包括的に文言として考えた。価値観の多様性についても求められる社会の中で、子供たちが充実して成長していく力を育みたいと考え、指摘いただいた点も含め、今後の課題としたい。

8 その他

(1) 学校部活動地域移行推進室の設置について、資料3に基づき説明

(2) 公設日本語学校の設置に向けた取組状況について、資料4に基づき説明

その他情報提供

○**図書館長**：存続の危機にある陸羽東線の活性化を図るため、陸羽東線を含む地方路線を紹介するコーナーを設置している。陸羽東線に魅せられて山口から岩出山に来ている、松原氏からのメッセージや写真も展示している。松原氏は陸羽東線や地方路線に対する思いが強い方であることから、来年度は図書館にて講演などをしていただけないか打診しているところである。直接的にまちづくりを支えることはできないが、側面から様々なことに携わり、協力してまいりたい。

○**地域交流センター長**：4月に開館して以降、街中再生、賑わい創出というコンセプトとつどいと交流の拠点と生涯学習の拠点と合わせた考え方のもと施設の運営をしてまいった。中央公民館時代と異なり、民間企業や社会教育関係団体以外の団体にまで広く施設を活用していただいている。夏祭り、秋祭り、世界農業遺産の5周年イベントのほか、企業内教育にも多く使われている。1月25日現在で、利用申請、報告をいただいたものの集計データでは4,183件で58,740人の利用があった。それ以外にも夕方になると自習スペースとしての活用ということで、1階のロビー、2階の地域活用スペースも含め、高校生の利用が多い。最近は中学生なども来るようになり、そういった意味では子供から高齢者まで多く利用されているという事実を鑑みると、実際には7万、8万人の利用になっているのではないかと推測され、にぎわいができてきているという印象を受ける。また、七日町周辺では人の流れにも変化が生じており、新庁舎の供用開始に伴い、さらに広がりが出てくるのではないかとと思われる。

子供の教室や講座開催のほか、お昼の時間にロビーコンサートを7月から毎月11日に開始している。マンドリン演奏から南京玉簾、フラダンスなど様々な演目を披露していただいております、50人から60人のお客様が集まり、楽しんでいただいている。先日開催した利用者懇談会で以前行っていた公民館まつりについて、話があがったことから来年度に向けては、そのようなイベントを開催し発表の場を設けたい。交流の場の観点からは、産業経済部と連携しながらお祭りに合わせて物産などができないかなど、広く人が集まるような工夫をしながら進めてまいりたい。お知恵、ご意見等があればお寄せいただきたい。

○**政策課長**：5月8日開庁に向け、備品の搬入を進めさせていただいている。今週に入り、備え付けの棚などの家具類を設置し、来週以降に机や椅子が順次搬入される予定。2月の中旬がピークになると思われるが、2月中旬から3月上旬頃までそのようなものの搬入作業を行った後、事務的な書類等の搬入を進めていく。本庁舎については自分たちで搬入をする必要がある部分があるが、教育委員会については、業者による大規模な引っ越し作業になる。ゴールデンウィーク前半には作業を完了し、5月7日には開庁の記念行事を開催する予定のため、開庁記念行事に支障をきたさないよう準備を進めてまいりたい。

なお、本庁舎全体の整備事業については周辺の駐車場等の整備を含めると令和6年度いっぱいぐらいまでかかる状況であるので、使いづらい状態は継続することになってしまうが、一体的に各部署が連携して取り組んでいくことで、業務上の効率化、市民の皆

さんへのサービスの向上を図ってまいりたい。

また、こけら落としイベントとして、6月に刀剣展を市民交流エリアで開催し、記念講演を地域交流センターを活用しながら進めたいと考えている。その後もこけら落としや記念行事を行っていくが、市民の皆さんが交流する拠点になっていくということを念頭に置いて作られたエリアであることから、エリアの目的に沿った活用を進めてまいりたい。

○**教育総務課長**：引っ越しの準備として、5月8日の開庁に向けて、準備を進めさせていただく。3月中には、持っていくものや残すものを含め、整理していくなかで委員の皆様にご迷惑をおかけすることもあるかもしれないが、しっかりやっていきたいと思うので、協力をお願いしたい。

9 閉会

熊野教育長から閉会のあいさつ

以 上